

## ◆ 今週のコメント

- ・ バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告が、1例(60歳 男性)あります。平成17年以降、平成17年が3例、平成18年が4例、平成19年が2例報告されています。
- ・ RSウイルス感染症の報告が16例あり、本年度で最も多い報告数で、増加傾向を示しています。年齢階級別では、1歳が8例(50.0%)と最も多く、次いで6ヶ月～11ヶ月が5例(31.3%)となっています。
- ・ 百日咳の報告が3例(6～11ヶ月, 10～14歳, 20歳以上)あります。本年度の累積報告数は既に52例で、平成12年～平成19年の年間累積報告数(17例～39例)と比べても、本年度は最も多くなっています。また、年齢階級別割合では、20歳以上の割合が、本年度は28.9%(15例)と最も多く、平成12年～平成19年(4.5%～11.4%)に比べかなり多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス:〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が0.93で、過去5年平均値(0.39)を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 8例(喀痰塗抹陽性 3例, 無症状病原体保有者 なし)  
 【1月以降の累積報告数 319例(喀痰塗抹陽性 100例, 無症状病原体保有者 24例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2) 1例【1月以降の累積報告数 80例】
- ・ 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 16例】
- ・ 五類:バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ*	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.85	117
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.93	38
	③ 突発性発しん	0.54	22
	④ RSウイルス感染症	0.39	16
	⑤ 水痘	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルス B4型(3)	かぜ症候群(第30週)	NP
	かぜ症候群(第31週)	NP
	不明熱(第32週)	SF

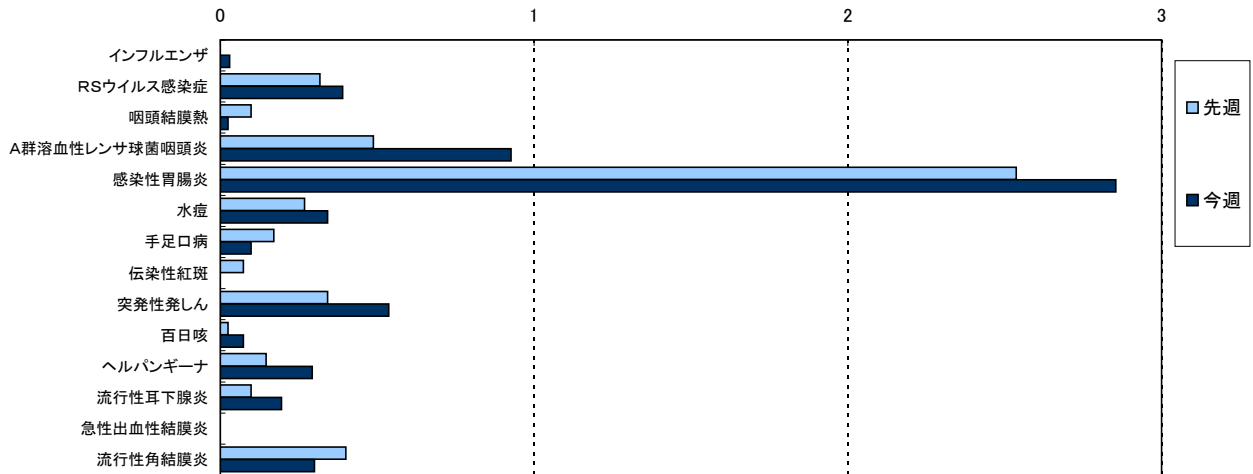
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉

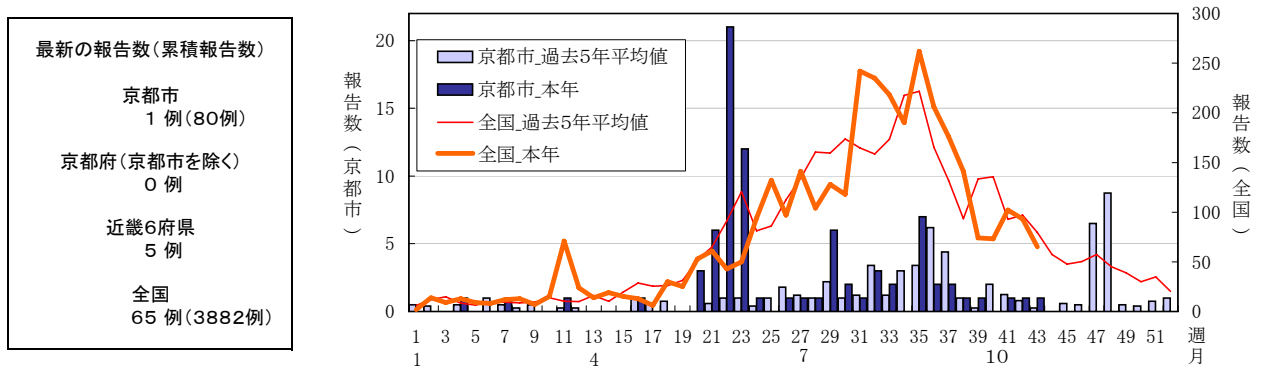
(注)京都市のデータは、平成20年10月31日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
 また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
 病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第43週)と先週(第42週)の定点当たり報告数の比較

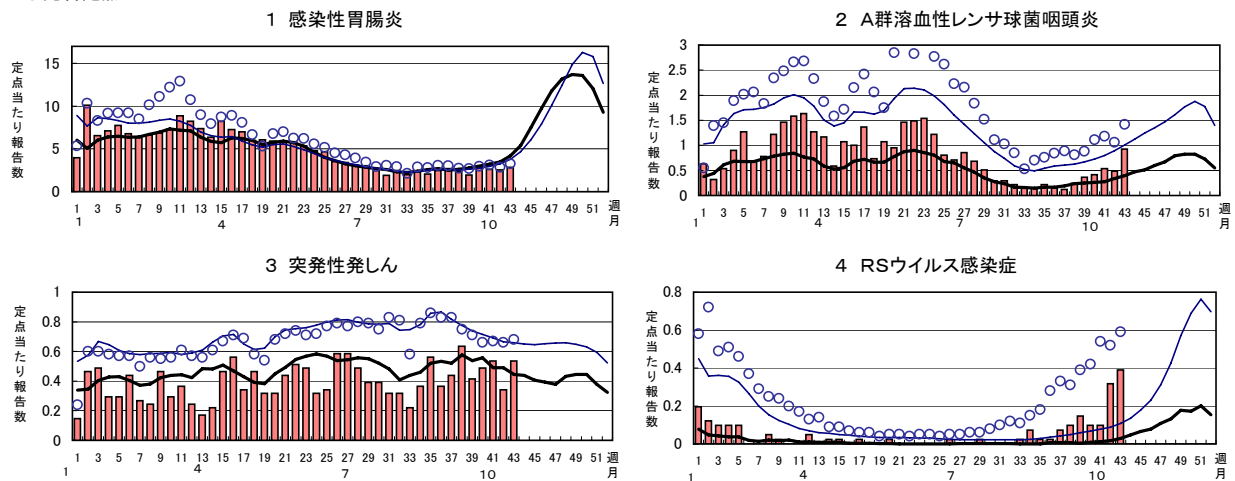


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

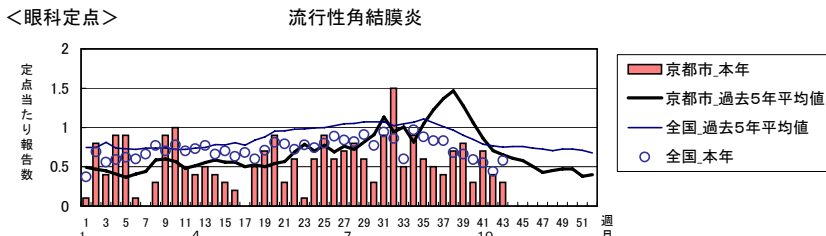


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



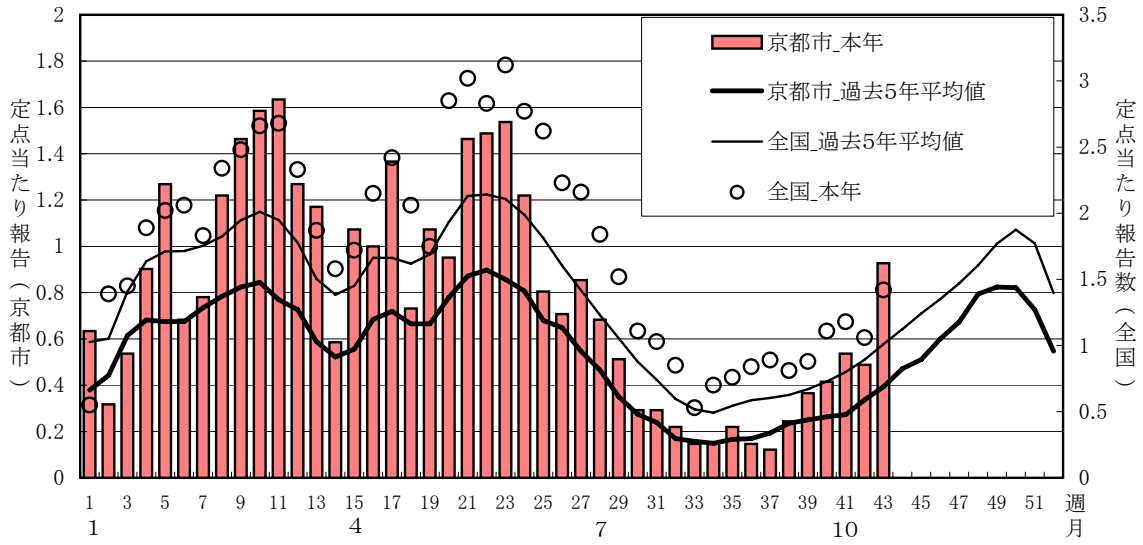
# 今週(第43週)のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が0.93で、過去5年平均値(0.39)を大きく上回っています。

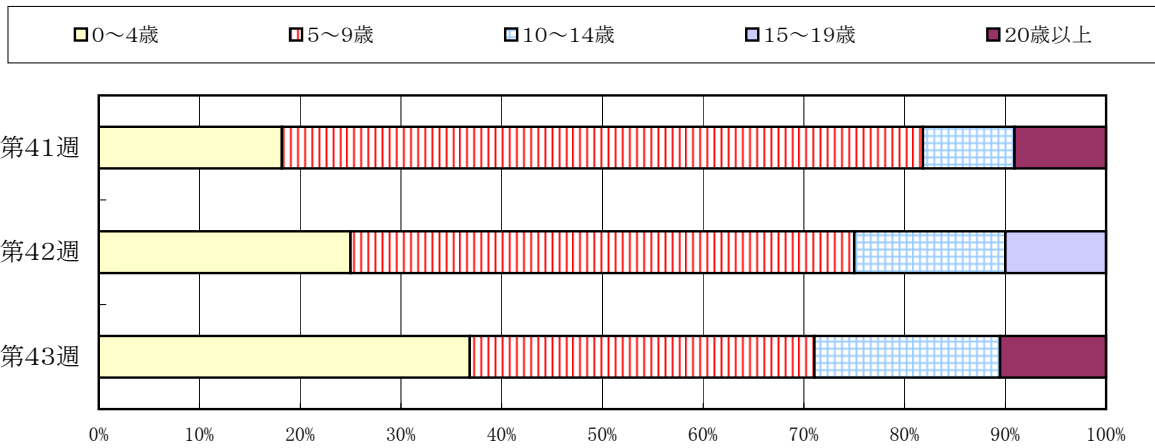
定点当たり報告数の推移をみると、第38週以降、増加傾向を示し、今週は、大きく増加しています。

第41週～第43週を年齢階級別割合でみると、今週は、0～4歳の割合が36.8%(14例)と最も大きくなっています。また、5～9歳の割合が、第41週及び第42週では、50%以上に比べ、今週は34.2%となっています。行政区別定点当たり報告数は、南区5.33(50.9%)が最も多く、次いで西京区1.75(16.7%)となっています。

全国及び本市の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合(第41週～第43週)



行政区別定点当たり報告数(第41週～第43週)

